

教科目名 環境生態学 (Environmental Ecology)

学科名・学年 : 都市・環境工学科 5 年 (教育プログラム 第 2 学年 ○科目)

単位数など : 選択 1 単位 (後期 1 コマ, 授業時間 23.25 時間)

担当教員 : 足立高行

授業の概要			
これまでの生態学の知見を元に, 具体的に発生している自然環境保全上の課題に対して最良の解決策を考える. このため人間活動の理解や環境倫理などをベースに, 自身によって環境問題を抽出し→評価→判断→立案→実行→モニタリング→結果判断→再評価という連続する環境配慮作業を実施する力を養う.			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (B2), JABEE 目標 (d1③) (g)	
(1) 生態系の構造と機能を説明できる. (定期試験) (2) 生物多様性の危機を理解している. (定期試験) (3) 自然生態系を守るための施策を理解している. (定期試験) (4) 環境影響評価の目的と予測する環境要素などを理解している. (定期試験) (5) 環境影響評価における保全措置と現状 (事例など) を理解している. (定期試験) (6) 環境と森林の関係を理解している. (定期試験) (7) 森林生態系と自然環境保全を理解している. (定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	生態系の構造と機能	生物学, 生態学の基礎知識を学ぶと共に, 具体的な自然環境問題をもとに今日的な課題のとらえ方, 対応策などを学ぶ.	【理解の度合い】
2		・生物とは. 環境とは.	
3		・生態系概念	
4	生物多様性	・生態系の実例 (陸域, 水域, 人為)	
5		・食物連鎖, 食物網	
6	自然生態系の保全	・生態系の構造	
7		・生物多様性の誕生 ・生物多様性の生物学的意味 ・生物多様性の構造 (生態系サービス) ・生物多様性の危機と保全 (大分県戦略)	
8	後期中間試験		【試験の点数】 点
9	後期中間試験の解答と解説	○分からなかった部分を理解する.	【理解の度合い】
10	環境影響評価 (自然系)	生態学的視点から人間活動に伴う環境への影響について考察する態度を身につける.	
11		・環境影響評価の目的と流れ, 技術的内容	
12	森林と自然環境	・環境影響評価における予測と評価 ・環境影響評価における保全措置	
13		・大分県環境影響評価条例その適応の実際	
14	森林生態系と自然環境保全	・日本の森林環境の特徴 ・植生の基礎と九州の森林植生パターン ・森林性動物群集の特徴 ・森林環境と動物類の相互影響	
15	後期期末試験		【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説	○分からなかった部分を理解する.	
履修上の注意		教科書をベースに, 具体的な事例を世界, 日本, 大分県内から参照.	【総合達成度】
教科書		青山芳之, 「環境生態学入門」, オーム社	
参考図書		日本生態学会編, 「生態学入門」, 東京化学同人 D. サダバア他, 「アメリカ版大学生物学の教科書」, 講談社	
自学上の注意		自然環境の現況に興味を持ち, 保全の大切さを考える	
関連科目		基礎生物化学, 環境衛生工学, 生物化学工学, 水環境工学	
総合評価		達成目標の (1)~(6) について, 2 回の定期試験で評価する. 総合評価=2 回の定期試験の評点の平均 総合評価が 60 点以上を合格とする. 再試験は原則として実施しない.	
			【総合評価】 点